

〈外国語(英語)部会〉

I 研究主題

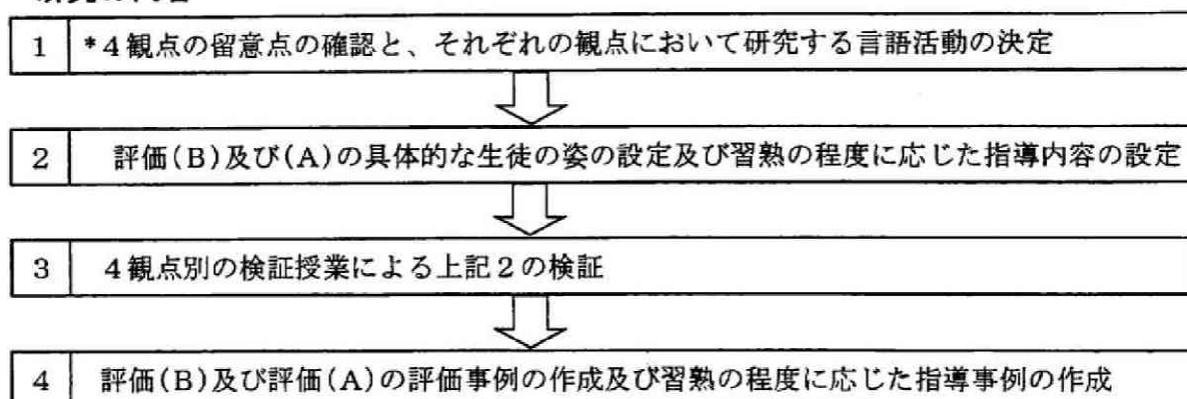
「信頼性を高める評価方法と習熟の程度に応じた指導方法の工夫・改善」

II 研究の概要

「目標に準拠した評価」が完全実施されて2年目を迎えた。各学校においては、評価規準が作成され、ある程度の充実が認められる。今後、より一層「指導と評価の一体化」を充実させるためには、「学習活動に即した具体的な評価規準」の適正な作成と、一人一人の習熟の程度に応じた指導方法の工夫・改善が必要となる。

本部会では、生徒の実際の活動や作品を用いて評価事例を作成するとともに、評価終了後にその時間内に行う具体的な「習熟の程度に応じた指導方法」を研究した。

III 研究の内容



* 4 観点の留意点と、それぞれの観点において研究した言語活動

観 点	留 意 し た 内 容	言 語 活 動
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	挙手の回数、宿題の提出状況といったものではなく、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲・態度を評価する。	聞くこと (評価事例Ⅰ)
表現の能力	言語材料についての知識の有無を評価するのではなく、伝えたいことを相手に分かりやすく表現しているかを評価する。	話すこと (評価事例Ⅱ)
理解の能力	言語材料についての知識の有無を評価するのではなく、相手が伝えたいことを理解しているかどうかを評価する。	読むこと (評価事例Ⅲ)
言語や文化について の知識・理解	語彙や音声、言語構造、表現、文化についての知識及び言語を実際に運用する上で必要となる知識について評価する。	書くこと (評価事例Ⅳ)

「留意した内容」については、「観点別学習状況の評価及び評定の在り方 中学校編」(平成14年2月 教育庁指導部)を参考にした。

評価事例 I	観点：関心・意欲・態度	言語活動：聞くこと
--------	-------------	-----------

◆本時の指導と評価の計画（第2学年：友達の説明するトピックを聞く）

分	学習活動	評価規準	評価方法
3	・タスクの説明（各自がロボットを発明した科学者という設定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの名前や絵を考えさせタスクへの関心を高める ・リスニングテストなので、大きな声でお互いのためにしっかりと読むよう意識させる。 ・後で感想を述べたり自己評価をしたりすることを伝え、聞くことを意識させる。 	
15	<ul style="list-style-type: none"> ・各自ロボット説明カード（教師が用意する。全10種類のうち1枚）を持ち、それを黙読する。 ・カードの内容が読み取れない時は質問する ・各自カードを buzz reading する。 		
20	<ul style="list-style-type: none"> ◎全員がワークシートの①と②に取り組む。 ・ワークシートを配布し、班ごとに活動を始める。 ・一人が説明書を読み、他の生徒はそれを聞きながらワークシートに記入する。（ワークシートの①） ・全員の説明が終わったら、気になるものを1つ選びそれについて答える。（ワークシートの②） 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員の話に興味を持っている。 ⇒アイコンタクト、メモ、あいづちなどの行動に現れている。 ・班員の説明に意見や質問を言うなど話題を広げようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート
10	<p>【タスクへの実現状況別の活動】 （ワークシートの①及び②ができたかどうか確認） 評価(A),(B)⇒ワークシートの③④に進む。 評価(C) ⇒LET'S TRY AGAIN に取り組む。</p>		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りの活動についての自己評価をする。（ワークシートの⑤） 		

◆評価(B)の事例

ワークシート

どのロボットにする？

① 新型ロボット続々発表開始！情報を手に入れよう。

発明者名	ロボットの名称	値段	性能	その他の情報
酒井博士	ミドリ	6000	服を作る	40cm くらい
鈴木博士	ソルソル	10000	宿題をやる	
伊藤博士	ベックバク	20000	いろいろな事ができる	

② 上のロボットのうち、ちょっと気になるものを1つ選んでみよう。

だれのロボット？	鈴木博士のソルソル
なぜ気になったの？	宿題をやってくれるから。
発明者に聞きたいことは？	どんなに宿題でもやってくれるのか？
発明者一言！	
君が名前をつけるとしたら？	

《評価(B)の理由》

- ・自分に必要な情報はメモを取りながら話を聞いていた。
- ・楽しい内容に対して笑いながら聞いた。
- ・話が終わった後に、話し手に質問をしようとしていた。

◆評価(A)の事例

ワークシート

どのロボットにする？

① 新型ロボット続々発表開始！情報を手に入れよう。

発明者名	ロボットの名称	値段	性能	その他の情報
Suzuki 博士	ソルソル	¥4000	宿題をやる	60cm くらい
Okamoto 博士	タンボボ	¥5000	ギターを弾く	80cm くらい
Ito 博士	ベックバク	¥10000	色々な事ができる	体の色：グリーン

② 上のロボットのうち、ちょっと気になるものを1つ選んでみよう。

だれのロボット？	Ito くん。
なぜ気になったの？	色々なところへ行けるから
発明者に聞きたいことは？	宇宙や他星にも行けるのか？
発明者一言！	ちゃんと名前が長いテスト。
君が名前をつけるとしたら？	Sarah

《評価(A)の理由》

- ・メモを取りながら話を聞いていた。
- ・話し手とアイコンタクトを取りながら話を聞いていた。
- ・楽しい内容に対して笑いながら聞いていた。
- ・話が終わった後に内容に対する感想や意見を述べようとしていた。
- ・聞き取りにくい時は“Pardon?”や“Big voice, please.”を使って積極的に情報を得ようとしていた。

◆本時で使用するワークシートと説明カード

*カードの英語は簡単に!
*英語の内容を工夫!

どのロボットにする?

①②は前ページの生徒のワークシートを参照

③他にもまだいいロボットがありそう! 班以外の博士からも情報をgetしよう。

発明者名	名前	値段	性能	その他の情報
博士				
博士				

④説明を聞いたロボットを1つだけ買おう。どれがいい?

だれの?	博士	決め手は?
------	----	-------

⑤博士の英語を聞いていた時の態度を自己評価しよう。

話し手見た?	メモとった?	質問をした?	head 触った?

できた ⇒ ○ できなかった ⇒ ×

CARD (A)

Look at this robot. Her name is(). I made her to help you. She was born to do your homework. You have a lot of homework for the summer vacation. ()does your homework. Her body is brown. She is about 60 centimeters tall. She is only 4000 yen. You should get her now!!

◆個に応じた指導事例

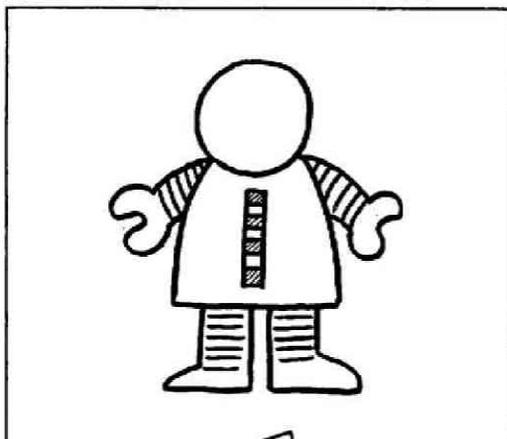
評価(A),(B)の生徒 ⇒ ワークシートの③、④に進み、自分の班以外の生徒との聞き取り活動を行う。
評価(C)の生徒 ⇒ LET'S TRY AGAIN(下図)のシートにより、聞き取りの補充学習を行う。

【評価(C)の生徒への手立て】

- 1 ワークシートの②への記入ができなかった生徒を集め、LET'S TRY AGAIN(下図)のワークシートを用いて聞き取りの再チャレンジをさせる。
- 2 今回は教師がカードを読む。カードの内容は興味をひくようなものを工夫する。
- 3 ワークシートには内容聞き取りのための選択肢を用意し、あらかじめどのようなものがあるか確認させる。
- 4 聞き取れたという自信を持たせるために、カードを読むときはキーワードを繰り返す、ジェスチャーをつけるなどのキューを与える。
- 5 英語を聞きながら簡単なあいづち (Pardon? Great. Wow.など) を使ってみよう指示する。

LET'S TRY AGAIN! どんなロボット?

①先生の作ったロボットのルックスは?



②どんなロボット? 当てはまるものに○をしよう。

ロボットの名前	ロボ	フライ	エンジェル
カラー	イエロー	グリーン	ブルー
サイズ	50cm	60cm	70cm
値段	¥1000	¥2000	¥3000
このロボットを買おうと...	数学の成績がUPする 空中散歩に行ける おいしい料理が食べられる		

聞き取ったロボットの外見を、図に描かせたり、色鉛筆で色を塗らせたりして興味を喚起する。

"She has big eyes. Her hair is long and green."

選択肢を与えて、内容を予測しやすいようにする。選択肢の数も3、4個にする。

◆本時の指導と評価の計画 (第1学年：買い物の場面のスキット)

分	学習活動	評価規準	評価方法
10	<ul style="list-style-type: none"> ・スキットの聞き取りと発音練習を行う。 ・関連表現の使い方を練習する。 ・ペアで練習を行う。 		
25	<p><発表> ペアごとに教室の前で発表。</p> <p>課題</p> <p>客…その場でカードを引き、書かれた商品を購入する。ただし店員の勧めた色を断り、欲しい色を伝え、値段を聞き、購入する。</p> <p>店員…勧めたい色を決めて伝える。客の購入する商品の値段を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の場面で適切に表現を選択して話したり応答したりすることができる。 ・アイコンタクトや会話において、適切な感情表現を使って会話を進めることができる。 	観察 (個人)
12	<p>【タスクへの実現状況別の活動】</p> <p>◎実現状況によりカードを渡す。</p> <p>評価(A)⇒Step up Card 2へ(右↓下)</p> <p>評価(B)⇒Step up Card 1へ(右↓下)</p> <p>評価(C)⇒Help Cardへ(右↑上)</p>		
3	本時のまとめ		

評価(C)の生徒には、その「つまずき」の内容により、さらに2つに分ける。

- 単語が発音できなかった生徒
→Help Card 1へ
- 表現がうる覚えだった生徒
→Help Card 2へ

◆評価(B)の事例

評価 店員→B (客→B)

店員: *May I help you?*

客: Yes, please. I want a CD.

店員: (上を向いて思い出そうとしている)
How mu...How about this red one?
(CDを差し出す)

客: I don't like it. I like this blue one.
How much is it?

店員: *Ten dollar.*(「ああ間違えた!」と声をあげて) *It's... It's ten dollars.*

客: Thank you.

店員: *Thank you.*



《評価B(店員役の生徒)の理由》

- ・思い出そうとして会話がとぎれがち場面もあったが、適切な表現を選択できた。
- ・CDを差し出すなどの動作を伴っていた。
- ・相手に伝わる声量と、店員らしい明るい笑顔でにこやかに会話できた。

◆評価(A)の事例

評価 客→A (店員→B)

店員: *May I help you?*

客: *Yes, please. I want a T-shirt.*(笑顔)

店員: *How about this black one?*

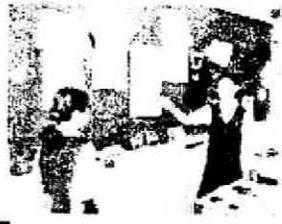
客: *I don't like it.*
I like this blue one.(手に取って)
How much is it?

店員: *It's... It's eighteen dollars.*

客: (ポケットの中を探して、手を差し出して) *Here you are.*

店員: Thank you.

客: *Thank you.*



《評価A(客役の生徒)の理由》

- ・自分の言葉で表現でき、会話をスムーズに進めることができた。
- ・十分な声量とアイコンタクトがあり、明るい表情で会話できた。品物を手に取るなど、会話にあった動作が自然にできていた。
- ・欲しいものや色を適切な表現を用いて伝えることができた。

◆ 個に応じた指導事例

- 評価(A)の生徒⇒Step up Card 2により、さらに深まりのある表現活動を行う。
- 評価(B)の生徒⇒Step up Card 1により、適切な表現を選択することをさらに身に付ける。
- 評価(C)の生徒⇒「つまずき」の内容別の Help Card により、表現活動の補充学習を行う。

【評価(C)の生徒への手立て】

○「つまずき」の課題別に Help Card を配り、課題別にグループを作らせる。

(1) 単語の発音ができなかった生徒への手だて (赤のカード)

(表) **Help Card 1** 単語の発音を確認しよう。

A : May I help you?
 B : Yes, please. I want a T-shirt.
 A : How about this blue one?
 B : I don't like it. I like this red one. How much is it?
 A : It's twenty dollars.
 B : Here you are.
 A : Thank you.
 B : Thank you.

(裏)

単語リスト

★分からない単語や読めない単語を確認して、練習しましょう。

単語	意味	単語	意味
T-shirt	Tシャツ	green	緑
cap	帽子	white	白
CD	CD	black	黒
book	本	red	赤
watch	うで時計	pink	ピンク
		blue	青
		yellow	黄色

★それぞれの値段の読み方を確認してみよう。

値段	読み方
\$ 1 2	twelve dollars
\$ 1 5	fifteen dollars
\$ 2 0	twenty dollars
\$ 2 5	twenty-five dollars
\$ 4 5	forty-five dollars

教師と1対1で単語の読み方を確認し、練習する。意味が分からない時は裏面で確認する。

(2) 表現がうろ覚えだった生徒への手だて (黄色のカード)

(表) **Help Card 2** 下線部に表現を入れてみよう。

A : _____ ?
 B : Yes, please. _____.
 A : _____ ?
 B : I don't like it. I like this _____ one. _____ ?
 A : It's 20 dollars.
 B : _____
 A : Thank you.
 B : Thank you.

(裏)

表現リスト

★次の表現の意味を確認しておこう。

表現	意味
May I help you?	いらっしゃいませ。
How about ~?	～はいかがですか。
How much is it?	いくらですか。
It's ~ dollars.	～ドルです。
Here you are.	(手を差し出して)はい、どうぞ。
I like it.	気に入りました。
I don't like it.	気に入りません。
I want ~.	～が欲しいです。

まず、グループ内でペアを作り、表現の練習をする。必要であれば教師も支援する。意味は裏面で確認する。

【評価(B)の生徒への手立て】

流れが書いてあるカードを見て適切な表現を選択できるようにする。

Step up Card 1

グループの友達と次の流れで会話をしよう。

A : 客をむかえる。
 B : かばんを買いにきたことを伝える。
 A : 黒いかばんをすすめる。
 B : 欲しいと言い、値段を聞く。
 A : \$ 1 4 と伝える。
 B : お金を渡す。
 A : お礼を言う
 B : お礼を言う

【評価(A)の生徒への手立て】

ペアで商品についての感想や会話に合った動作を考えさせ、深まりのある会話にする。

Step up card 2 何を買うか勧めるか考え、さらにその商品についての感想を加えてみよう。またどんな動作や表情ができるかを考えて () に入れよう。

A : May I help you? ()
 B : Yes, please. _____
 A : How about _____ ?
 () _____
 B : _____ ()
 _____ ()
 How much is it?
 A : It's _____ dollars.
 B : _____ ()
 A : _____ ()
 B : _____ ()

◆本時の指導と評価の計画 (第3学年：物語を読む)

分	学習活動	評価規準	評価方法
4	Greetings 本時の流れおよび評価の説明		
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ Hikoichi's Living Umbrella を黙読する ・ 読めないと自分で判断した生徒は、Help Card を使用しながら読み進める 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布されたワークシート (下の左側資料参照) に答える。 ・ 解答とともにセルフチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話のあらすじを理解することができる ・ とんち話の落ち (ユーモア) を理解することができる 	ワークシート
10	<p>【タスクへの実現状況別の活動】</p> 評価(B)⇒テキスト2へ (下の資料の右側) 評価(C)⇒ Help Card を使用しながら、テキストや要約文を読み進める (資料右ページ)	タスクの内容上、この段階での評価は(B)までとし、 テキスト2 もできた生徒を評価(A)とする	ワークシート
1	次回の活動の予告 Farewells		

◆評価(B)の事例

「彦一の傘」事件 殿様の主張！

私は殿様。そもそも今回の件で話題になっているのは

①彦一の生きている傘なんですけど、それはうわさだと、
 ②雨の日に開き、晴れの日に開くらしいんですよ。

で、私はそれが欲しくなって、家来に買いに行かせたら、
 ③注意して取り扱いするようにと彦一に言われました。

それから私はそれを床の間に置いて10日間も待ったんです。
 しかしその傘は④雨が降っても開かなくてですよ。
 もう腹が立って腹が立って、すぐに彦一を呼びつけたんです。

そしたらなんと彦一は
 ⑤顔をあげなかったから死んでしまった
 だって言うんです。

みんなはこの話をユーモラスだって言うんですけど、私にはいまひとつよくわかりません。①～⑤のどの部分がユーモラスなんですか (面白いんですか) ? 教えてください。

えっ? ④ ⑤ (番号) の部分がユーモラスなんですか... (泣)

《評価(B)の理由》
 (本時の教材に対して)

- ・ 物語のあらすじをおおむね理解している。
- ・ 物語のユーモアを理解している。

◆評価(A)の事例

テキスト2 次の英文を読んで、下の間に答えなさい。

A boy was standing on the corner with newspapers, shouting, "Read this newspaper. Fifty people became angry! Fifty people became angry!"

A man walked over, bought the paper, and checked all pages. But he couldn't find anything special about the news in the paper. The man said to the boy, "There's nothing special in here. You said fifty people became angry!"

The newsboy didn't listen to him and went on, shouting, "Read this newspaper. Fifty-one people became angry!"

①50人の人々はなぜ怒ったのか。
 新聞には特別な事は何も書かれていなかったから

②この話の中では、結局何人の人がうそをついたのか。
 (ア) 0人 イ) 1人 ウ) 2人 エ) 50人 オ) 51人

《評価(A)の理由》
 (他の物語に対しても安定して)

- ・ 物語のあらすじを理解している。
- ・ 物語のユーモアを理解している。

◆個に応じた指導事例

評価(B)の生徒 ⇒ テキスト2を読み、さらに深まりのある読む活動に取り組む。

評価(C)の生徒 ⇒ Help Cardにより、読むことについての補充学習を行う。

【評価(C)の生徒への手だて】

* 4枚を一つに綴った Help Card 1～4を評価(C)の生徒に渡す。

1st help スキーマを喚起してテキストのあらすじを推測する

Help Card 1 このとんち話は日本の物語なので、多くの場合「起」「承」「転」「結」の順番に並んでいます。(例：4コマまんが)

各ページから重要なセリフを抜き出すと・・・

起	p32	Kin: Hikoichi's umbrella is different. It's alive.
承	p33	Hiko: Please treat it(the umbrella) carefully.
転	p34	Lord: The umbrella is still closed. It's a trick.
結	p35	Hiko: The umbrella is dead. Did you feed it every day?

となります。これらをヒントに、この話の全体の内容を想像してみましょう。

2nd help 先に要約文を理解する(下の資料はその一部)

Help Card 2 次の文は教科書の文をより簡単にしたものです。この物語のあらすじを理解しましょう。

p 3 2	p 3 3	
<i>The Lady wants Hikoichi's living umbrella.</i>	<i>Kinosuke and Kakunoshin go to Hikoichi's shop.</i>	<i>They put tokonoma days, they</i>
Lady: Do you know Hikoichi's umbrella?	Hikoichi: May I help you?	Lord: Is th
Lord: What is it?	Kaku: Our Lord wants your living umbrella.	Lady: It v
Lady: It opens on rainy days.	Hikoichi: I can't sell it.	Lord: I hop
Kin: It closes on sunny days.	Kin: You must sell it.	Lady: Look
Lord: I want it! Get it!	Hikoichi: Never.	Kin: Let's
	Kaku: The Lord will kill us.	It'll o
	Hikoichi: OK.Treat it carefully.	Lady: Did
	Kaku: Yes. Here is your money.	Lord: It's a
	<i>Hikoichi smiles.</i>	Brin

3rd help Help Card 2に文の構造を示し、意味理解に役立てる(資料はその一部)

Help Card 3 誰が何を()するか注意して読んでみよう。

p 3 2	
<i>The Lady wants Hikoichi's living umbrella.</i>	○が□する__を
Lady: Do you know Hikoichi's umbrella?	Do ○が□する__を?
Lord: What is it?	What = ○?
Lady: It opens (on rainy days).	○が□する(飾り)
Kin: It closes (on sunny days.)	○が□する(飾り)
Lord: I want it! Get it!	□__ 命令文

4th help Help Card 3に単語の意味を示し、意味理解に役立てる(資料はその一部)

Help Card 4 単語の意味を確認しながら読んでみよう。

p 3 2	
<i>The Lady wants Hikoichi's living umbrella.</i>	Lady 奥方様 want 欲 しがる living 生きてい る umbrella 傘
Lady: Do you know Hikoichi's umbrella?	know 知っている
Lord: What is it?	what 何
Lady: It opens (on rainy days).	open 開く rainy 雨降 りの day 日
Kin: It closes (on sunny days.)	close 閉じる sunny 晴
Lord: I want it! Get it!	れの get 手に入れる

○英文読解を困難と感じる主な原因

- 1) パラグラフおよび文章全体
 - ・文と文のつながりがわからない
- 2) 構文
 - ・単語と単語のつながりがわからない
- 3) 語彙
 - ・単語の意味がわからない

この順番は下へ行くほど、読解に対する困難の度合いが高い。そこで上の層から順に支援し、問題解決できる者をそれぞれの学習活動に移行させて「個に応じた指導」を行う。

★1st help

Help Card 1 であらすじを推測することができたらテキストに再チャレンジする。できなければ2nd helpへ。

★2nd help

Help Card 2 であらすじをつかむことができたならテキストに再チャレンジする。あらすじが理解できなければ3rd helpへ。

★3rd help

Help Card 3 で文の構造をとらえ、意味を理解する。できなければ4th helpへ。

★4th help

Help Card 4 で文の構造と単語の意味を知り、単文の意味を理解する。

注) ○□_ () 等の記号は、主語、動詞を表す記号である。

◆本時の指導と評価の計画（第2学年：My Dreamというタイトルでスピーチの原稿を書く）

時	学習活動	評価規準	評価の方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 既習文法事項を復習する。 モデル文や関連表現を参考にしてスピーチ原稿の下書きを英語で書く。このとき、「結論」、「理由1」、「理由2」を箇条書きにする。 	<p>◎指導のポイント(第1時)</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチの下書きをさせる。 机間指導や、この時間終了後に回収する下書きから間違いを分析する。(右ページ資料1) 	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 下書きにおいて数多くあった文法的な間違いについて、教師から説明を受けてから、練習問題(資料2)を行う。 	<p>◎指導のポイント(第2時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 間違い分析を基に作成した補充問題(右ページ資料2)を全員に行わせ、to不定詞の確実な定着を図る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 前時に書いた下書きを自分で校正する。 	<ul style="list-style-type: none"> to不定詞の意味と構造を理解している。 	校正後の下書き
	<p>【タスクへの実現状況別の活動】</p> <p>評価(A),(B)⇒原稿を完成させる。 評価(C)⇒教師の指導の下、再度(資料2)に取り組む。</p>		

◆校正後が評価(B)の事例

My Dream
*まずは My Dream というタイトルで考えつく文を箇条書きにしよう!

①「～になりたい。」「～したい。」という結論の文を書きましょう。
I want to be a Juggler.

②上記①の文の1つ目の理由を書きましょう。
I like to make people happy.

・この1つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
When some people be sad
I want to they be happy.

③上記①の文の2つ目の理由を書きましょう。
I want play Juggling in new York.

・この2つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
Many Jugglers are racing
in new York.

《評価(B)の理由》

・ want to に誤りが見られる文があるが、その他は正確に書けているので、おおむね満足の状況にあると言える。

◆校正後が評価(A)の事例

My Dream
*まずは My Dream というタイトルで考えつく文を箇条書きにしよう!

①「～になりたい。」「～したい。」という結論の文を書きましょう。
I want to be a base ball player.

②上記①の文の1つ目の理由を書きましょう。
I like to play baseball.

・この1つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
I like baseball.

③上記①の文の2つ目の理由を書きましょう。
I want to play in an all star game.

・この2つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
I want to show my play all over the world.

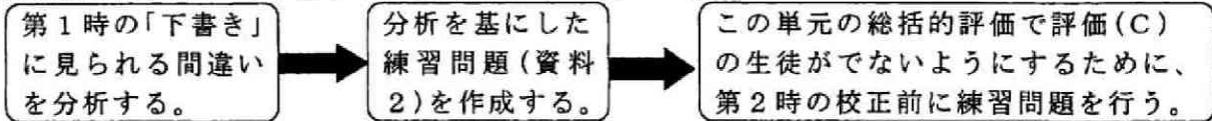
《評価(A)の理由》

・ want to 及び like to について、常に正確に書けているので、十分満足の状況にあると言える。

◆ 個に応じた指導事例

評価(A),(B)の生徒	⇒スピーチ原稿を完成させる。
評価(C)の生徒	⇒資料2や教師が用意する同様の内容のワークシートに取り組む。

◆ 形成的評価において評価(C)と判断される生徒への手立て



資料1

- ・ to の欠落 : I like play tennis.
- ・ 動詞の原形 (be) の欠落 : I want to a baker.
- ・ 不必要な be の挿入 : I want to be write about sport. など

資料2

* これからみなさんが前回の授業で書いた My Dream の下書きを校正 (間違っているところを見つけ出し、訂正する) してもらいます。
 その前に、次の問題をやってみましょう。これらはみなさんが書いた文の中で、間違いが多かったものに関する問題です。じっくりと考えて行いましょう。

「to + 動詞の原形」(不定詞)

- 次の文の () に適する単語を記入しなさい。
 - I like () watch TV. 私はテレビを見るのが好きです。
 - I want () () the book. 私はその本を読みたい。
 - Ken wants () () a nursery school teacher. ケンは保育士になりたがっている。
 - I () () () doctor. 私は医者になりたい。
- 次の文を英語で書きなさい。
 - 私はバレーボールをすることが好きではない。
 - 私は英語の先生になりたい。

◆ 形成的評価で評価(C)と判断された生徒が、練習問題実施後に評価(B)となった事例

・ 校正前 (評価(C))

My Dream
 *まずは My Dream というタイトルで考えつく文を箇条書きにしよう!

① 「～になりたい。」「～したい。」という結論の文を書きましょう。
 I want a tennis player.

② 上記①の文の1つ目の理由を書きましょう。
 I like play tennis.

・この1つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
 I play tennis

③ 上記①の文の2つ目の理由を書きましょう。
 I am member of the tennis club.

・この2つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。

・ 校正後 (評価(B))

My Dream
 *まずは My Dream というタイトルで考えつく文を箇条書きにしよう!

① 「～になりたい。」「～したい。」という結論の文を書きましょう。
 I want to be a tennis player.

② 上記①の文の1つ目の理由を書きましょう。
 I like to play tennis.

・この1つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。
 I play tennis a little.
 I want play tennis well.

③ 上記①の文の2つ目の理由を書きましょう。
 I am a member of the tennis club.

・この2つ目の理由の説明や、つけたすことを書きましょう。

V 研究のまとめ

1 信頼性を高める評価方法

- (1) 学習指導要領に則り、国立教育政策研究所教育課程研究センター資料等を参考にして、「単元の評価規準」と「学習活動に即した具体的な評価規準」を明確に設定する。
- (2) 「おおむね満足」の規準がクリアできれば評価(B)、できていなければ評価(C)とする。この評価を形成的評価として生かし、評価(C)の生徒を評価(B)以上に改善する手立てを工夫する。
- (3) 評価(B)の中で「質的に広がり、深まりがあるもの」を評価(A)とする。評価(A)の基準を設定するのではなく、質的に広がりや深まりのある生徒のイメージやキーワードを持つことが大切である。
- (4) タスクの内容によっては、その活動のみでは「広がり、深まり」が見られない場合がある。その場合、複数回行う同様なタスクに対して、「常に、安定して」規準をクリアできることが「広がり、深まり」であると考えられる。
- (5) 信頼性を高めるためには、生徒の実際の活動や作品等を分析した評価事例集の作成が有効である。

2 習熟の程度に応じた指導

- (1) 習熟の程度に応じた指導は、信頼度の高い評価結果に基づいて行われなければならない。
- (2) 「努力を要する状況」(評価(C))にある生徒のつまずきの原因を分析することが重要である。補充学習の教材作成においては分析結果に基づいて、「生徒の意欲を喚起する教材(評価事例Ⅰを参照)」「つまずきの程度・内容に応じた教材(評価事例Ⅱ・Ⅲを参照)」を作成することが有効である。
- (3) 形成的評価において「努力を要する状況」にあると判断された生徒に対してもそのつまずきの原因を分析し、総括的評価においては「おおむね満足できる状況」にするための補充教材の作成(評価事例Ⅳを参照)が有効である。実際に、形成的評価で評価(C)であった生徒が補充教材による指導後に評価(B)となった事例が数多く見られた。
- (4) 「習熟の程度に応じた指導」を行う場合、評価(C)だけではなく、評価(A)や評価(B)の生徒への手立ての研究も行った。これにより、全生徒が習熟の程度に応じた学習をすることができた。

3 今後の課題

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
 - ・4観点は互いに関連を持っており、「関心・意欲・態度」を適切に表出させる教材作りや指導法をさらに研究する必要がある。
- (2) 表現の能力
 - ・スピーチ活動においては、暗記した文章の発表ではなく、その場の状況に応じた適切な表現活動をさせる指導をいかに段階的に設定していくかが課題である。
- (3) 理解の能力
 - ・文法や文構造の理解ではなく、作者の意図が読みとれたかどうかを評価するための、多様な補助教材の開発が必要である。
- (4) 言語や文化についての知識・理解
 - ・文化についての知識・理解に関する指導方法・内容・評価の工夫が必要である。